

第6期 上士幌町総合計画

2022～2031

未来につなぐ 笑顔かがやく

元気まち上士幌

ダイジェスト版



未来につなぐ 笑顔かがやく

元気まち上士幌



上士幌町は、十勝平野の北部にあり、日本最大の国立公園である大雪山国立公園の東山麓に位置する豊かな自然に恵まれた、畑作、酪農、林業を基幹産業としたまちです。昭和 6 年に士幌村から分村し、昨年、開町 90 周年を迎えました。

地方創生では、早くから人口減少問題に取り組み、様々な分野でまちの魅力を高めた結果、移住者等が増加したことにより人口減少に歯止めがかかり、人口約 5 千人を維持しています。

また、畜産バイオマスを核とした再生可能エネルギーの地産地消や、ドローンなどの新技術、豊富な食料生産、人口増加が評価され、2020(令和 2)年には第 4 回ジャパン SDGs アワード「内閣官房長官賞」を受賞し、2021(令和 3)年度には SDGs 未来都市及び自治体 SDGs モデル事業に選定されています。地球温暖化に対しても国内外の動きに呼応し、2050 年、二酸化炭素排出量実質ゼロを目指して「北海道上士幌町ゼロカーボンシティ」を宣言したところです。これらの成果を継続させ深化させていくことが、まちの魅力と価値を高め、持続可能なまちづくりにつながっていくものと考えております。

一方で、新型コロナウイルス感染症のまん延、産業構造の変化、全国的な人口減少など、私たちの社会はこれまでにない大きな変化にさらされ、先行きが不透明な時代を迎えています。これらの社会の変化に対応しながら、本町が進むべき羅針盤として第 6 期総合計画を策定しました。

本計画は、まちづくり将来像を「未来につなぐ 笑顔かがやく 元気まち上士幌」として、この美しいまちを 10 年後の開町 100 周年に向けて、町民や関係者の皆様とともにまちづくりを進めてまいります。

最後に、第 6 期総合計画の策定にあたり、「上士幌町総合計画策定審議会」委員の皆様をはじめ、「まちづくり委員会」委員の皆様、またアンケートや懇談会などで貴重なご意見・ご提言をいただきました町民の皆様にご心よりお礼申し上げます。

2022(令和 4)年 3 月

上士幌町長 竹 中 貢

序論

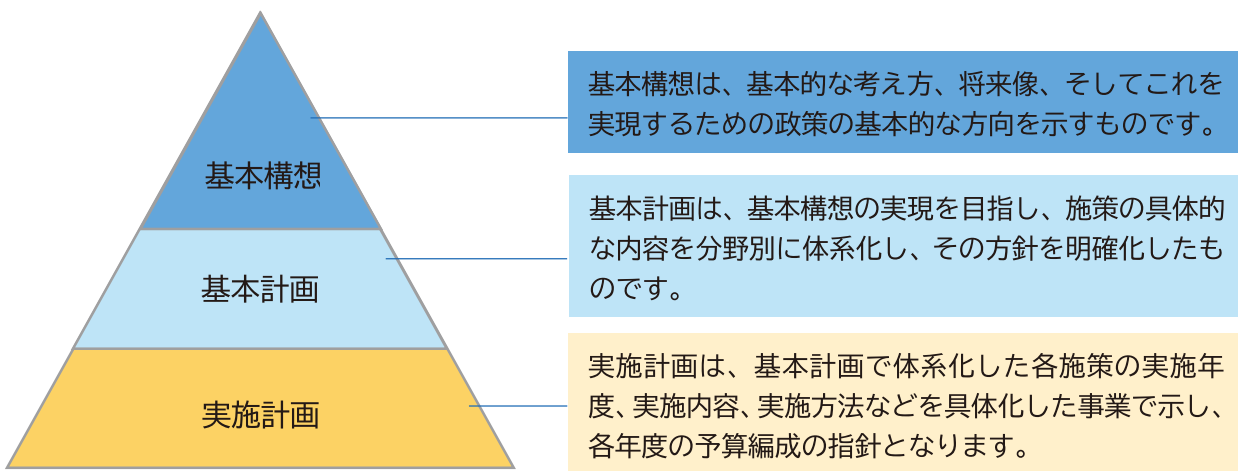
総合計画とは

上土幌町総合計画は、町の様々な分野でどう進んでいくのかを取りまとめ、広く町民の皆様に対しまちづくりの長期的展望を示す、町の最上位計画です。

上土幌町で暮らす皆様の思いを反映しながら、上土幌町に住み続けたいと実感できるまちづくりを進めるための、今後の10年間を見据える「羅針盤」となる計画です。

総合計画の構成

本総合計画は、「基本構想」、「基本計画」、「実施計画」で構成します。

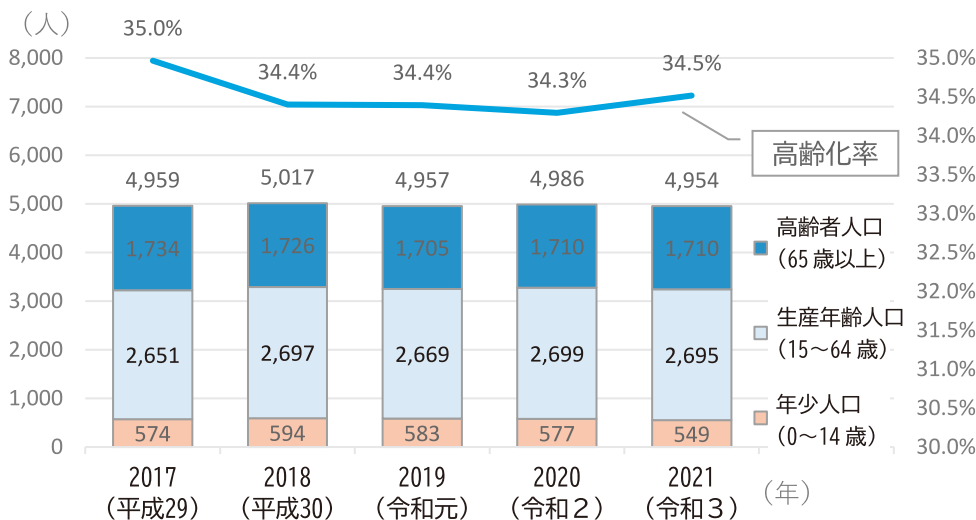


総合計画の期間

本総合計画は、計画期間を2022(令和4)年度から2031(令和13)年度までの10年間とし、基本構想は10年間、基本計画は5年間の計画期間とします。実施計画は前期と後期にそれぞれ5年分を策定し、毎年度残りの年度を見直します。

まちの人口

人口の推移（住民基本台帳）



この5年間の状況

- ◇総人口は横ばい
- ◇年少人口は微減
- ◇生産年齢人口は微増
- ◇高齢者は微減
- ◇高齢化率は横ばい

基本構想の概要

まちづくりのテーマ(将来像)

「未来につなぐ 笑顔かがやく」

これまでのまちの伝統や暮らし、そして新しいことにチャレンジしつづける姿勢を未来の世代につなげるとともに、町民がいきいきと活躍できるまちづくりを示しています。

「元気まち上土幌」

これまでのまちづくりテーマで利用され、多くの人に共有された言葉であり、活力にあふれたまちづくりを目指す姿勢として、引き続き位置づけます。

「未来につなぐ 笑顔かがやく 元気まち上土幌」

目標人口

本町は、全国に先駆けて、子育て支援・教育施策の充実、産業振興による雇用拡大、賃貸住宅の整備支援事業などの総合的な取組をしてきたことで、人口が維持されています。この流れを絶やさずに、さらなる魅力的なまちづくりを継続していけば、約 5,000 人の人口維持は十分実現可能な目標となっています。

人口の維持は、持続可能なまちづくりにとって最も重要な要素の一つであり、引き続き人口減少対策が求められます。このため、本計画では 2031(令和 13)年の本町の目標人口を 5,000 人と設定し、様々な分野において魅力ある、そして選ばれるまちづくりを推進していきます。

	2016(平成 28)年	2026(令和 8)年	2031(令和 13)年
将来人口 (推測値)	4,959 人	4,940 人	4,937 人

↓

2031(令和 13)年の 目標人口	5,000 人
-----------------------	----------------

SDGs(17 の持続可能な開発目標)

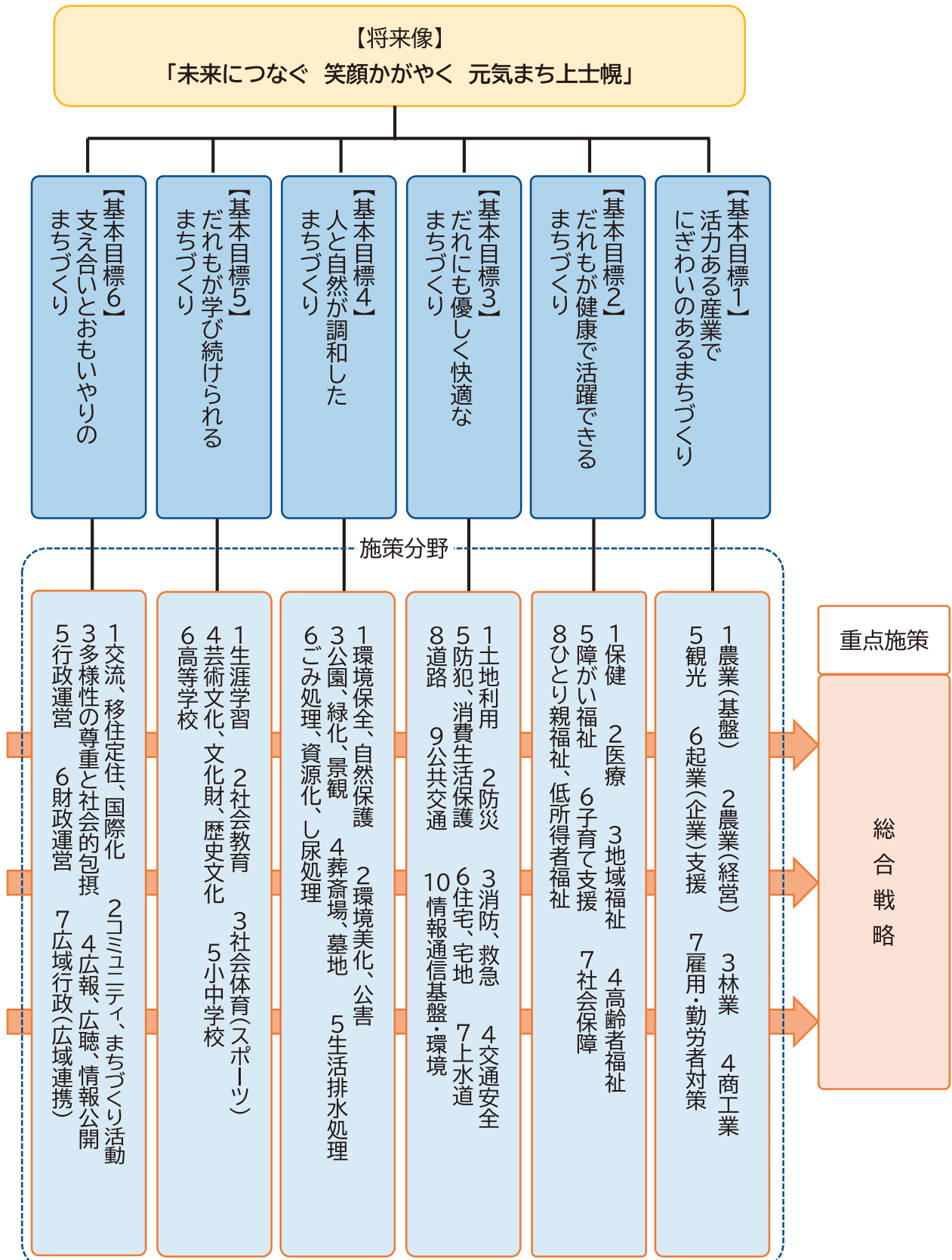
SDGsは持続可能な開発目標を意味し、2030(令和12)年までの国際社会全体の目標です。17 のゴールと 169 のターゲットから構成され、「誰一人取り残さない」社会の実現を目指しています。目標達成のためには、私たち一人ひとりが身の回りの経済・社会・環境をめぐる様々な課題を「自分ごと」として捉え、積極的に行動していくことが大切です。

本町においても、この考え方を取り入れ、町民への理解促進に向けた取組を通じ、自らが率先して行動に移せる環境づくりとともに、各施策とSDGsとの関連性を明らかにしながら、本計画を推進していくことで、持続可能なまち(SDGsの達成)となることを目指します。



施策の体系

将来像と6つの基本目標、そして44の施策分野を掲げ、計画を推進します。総合戦略は総合計画の重点施策と位置づけ、総合戦略と総合計画を一体的に取り組み、効率的かつ効果的な運用を目指します。



基本計画の概要

基本目標1 活力ある産業でにぎわいのあるまちづくり

1-1 農業(基盤)



- 本町の基幹産業である農業の活力を将来にわたって持続させていくために、従来の優良農地の確保・保全に加え、環境負荷の軽減やSDGsへの取組など、持続可能な農業基盤を構築します。
- 地域資源の循環、農村地域の活性化、環境に配慮した農業生産を通じて、多様な人が住み続けられる農村振興により農業経済と農村環境の好循環を目指します。
- 資材・エネルギー調達での脱輸入・脱炭素化・環境負荷軽減に向けた農業・農村地域を構築します。
- 生産性の高い農用地等を目指し、スマート農業の導入を促すとともに基盤の整備を行います。

1-2 農業(経営)



- 今後のわが国の自由貿易の展開等により、変化する農業情勢や消費者ニーズに柔軟に対応できるよう、安全な農畜産物の生産と収益性の高い農業経営を支援します。
- 環境保全や資源循環を意識した農業を推進します。
- 農作業のアウトソーシング及びイノベーションによる生産性向上と持続的生産体系の構築を進めます。
- 持続可能な消費の拡大と食育・エシカル消費※につながる活動を推進します。

1-3 林業



- 本町の豊かな森林資源を子や孫の世代に引き継げるよう、林業の成長産業化を図り、持続可能な森林整備を核とした資源循環の取組を積極的に推進していきます。
- 生活基盤や食糧生産を支える森林の整備・保全と森林の多面的機能を発揮し、魅力ある農山村づくりを推し進めます。
- SDGsモデルの達成を目指し、カーボンニュートラルに向けた森林・木材の活用を進めます。

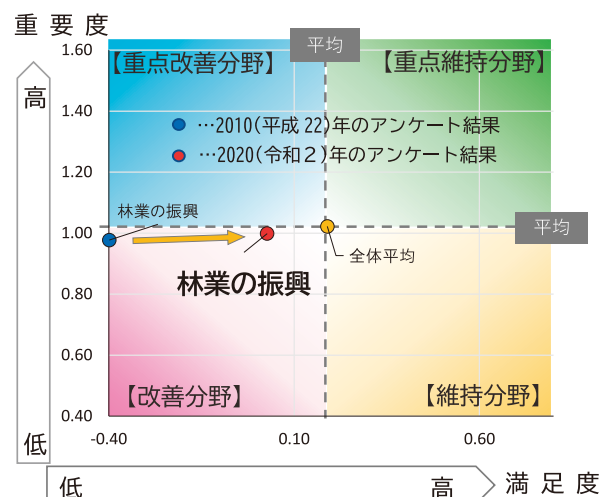
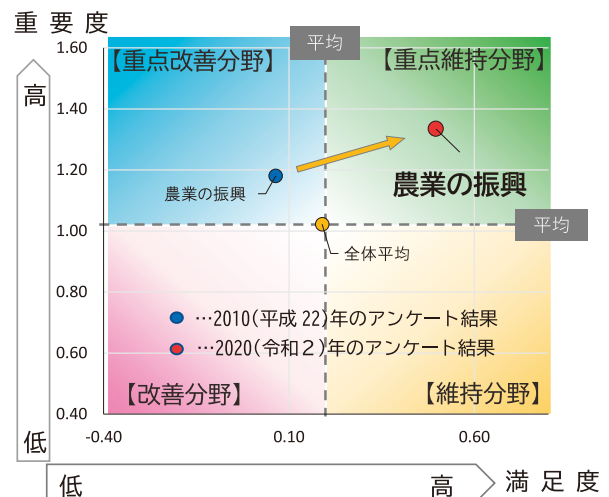
※エシカル消費：消費者それぞれが各自にとっての社会的課題の解決を考慮したり、そうした課題に取り組む事業者を応援しながら消費活動を行うこと。

【満足度・重要度の経年比較のグラフについて】

以下に掲載している、「満足度・重要度」のグラフは、総合計画策定時に実施している住民アンケートの調査結果で、比較可能な施策分野について、2010(平成22)年と2020(令和2)年の調査結果を掲載しています。

多くの分野で満足度が上がっていることがわかります。

【満足度・重要度の10年前との経年比較】

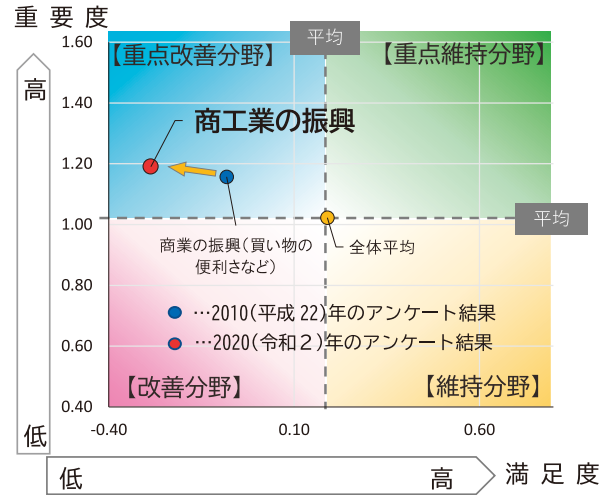


1-4 商工業



- 町内の団体等と連携しながら、地元商工業の振興を促進します。
- ICTの発展に迅速に対応し、町民のだれもが買い物しやすい商工業環境を整備し、町民のニーズに合った商品・サービス提供を促進します。
- 観光拠点の整備に伴い、地域の魅力ある商品等の町外への情報発信を支援します。

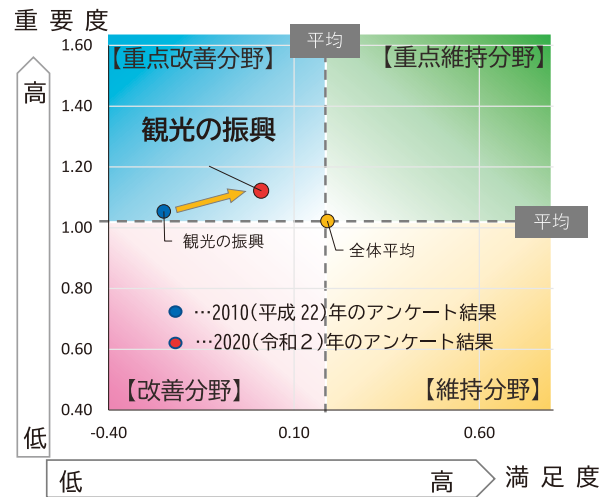
【満足度・重要度の10年前との経年比較】



1-5 観光



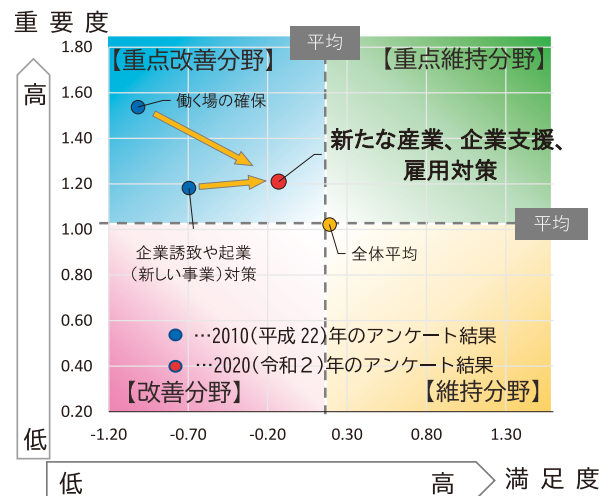
- 東大雪の自然、温泉、熱気球、雄大な農村景観、農畜産物をはじめとする食、十勝平野開拓の歴史などの豊富な観光資源を活用するとともに、その豊かな資源を守り、次世代につなげます。
- 観光地域商社を核とした、多種多様な事業者の観光産業への関わりにより地域経済の活性化を図り、地域全体で上士幌町ならではの観光振興によるまちづくりを進めます。
- 閑散期について、情報発信やイベントを推進することで、通年観光化を図ります。
- ひがし大雪自然館を拠点とした東大雪地域の自然体験や自然環境保全の充実並びに環境教育の普及に努めます。



1-6 起業(企業)支援



- ICTの発展等により働き方や企業の在り方が多様化していく中で、地方を拠点としたい企業・個人のニーズに対応し、受け入れられる環境を整備します。
- 地域の雇用拡大や活性化を目指し、上士幌町で起業したい、事業をしたいという人を応援します。
- 農林商工、産学官、都市と農村の連携などの協働により、特産品づくりや起業に結びつけます。



1-7 雇用・勤労者対策



- 町民が町内で安全に安定して働くことができるよう、雇用環境の改善と働く場の拡大を働きかけます。

基本目標2

だれもが健康で活躍できるまちづくり

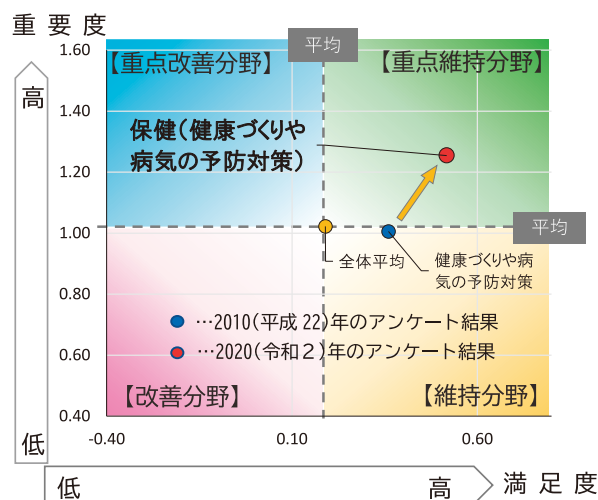
2-1 保健



- だれもが健康意識を高め、望ましい生活習慣を確立するために、生涯を通じた健康づくりを支援します。
- 新たな感染症の発生等にあっても、町民の健康を確保し安心して暮らせるように感染症対策を推進します。



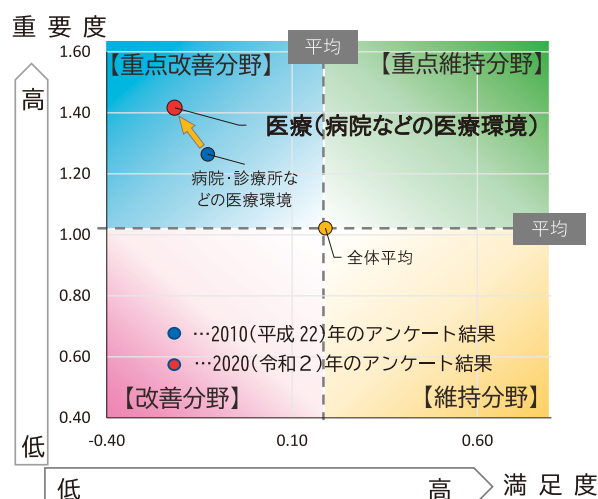
【満足度・重要度の10年前との経年比較】



2-2 医療



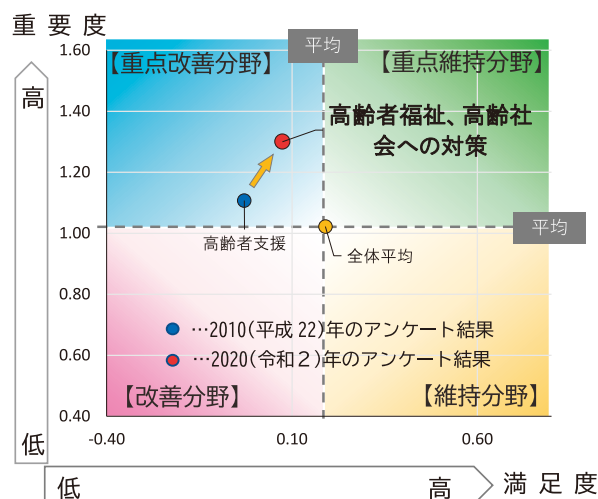
- 最も身近な医療機関として町民が安心して受診できる医療体制の維持、充実に努めます。



2-3 地域福祉



- だれもが地域において安心して自立した生活が送れるように、地域において役割をもち、人と人、人と地域がつながる地域共生社会を目指します。

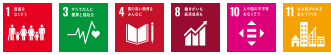


2-4 高齢者福祉



- 高齢者がいつまでも健康で暮らせるよう、介護予防や生きがいづくりを推進します。
- 高齢者が住み慣れた地域で、自分の能力に応じて自立した生活が送れるよう、専門職だけでなく地域や町民も含めた地域包括ケアシステムを深化・推進します。

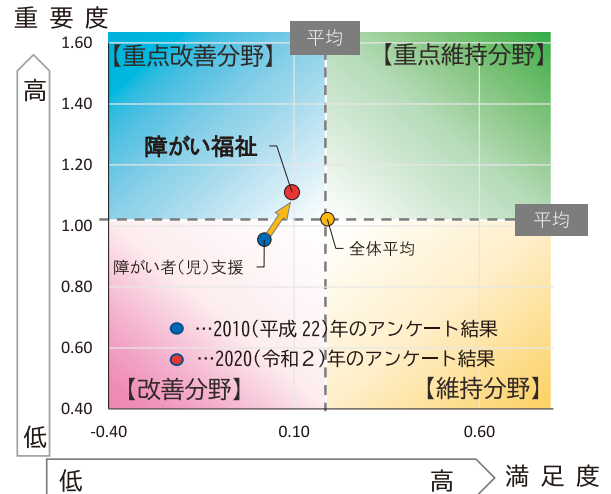
2-5 障がい福祉



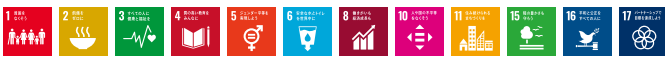
□障がいのある人々が住み慣れた地域で安心して暮らせる地域社会の実現を目指します。



【満足度・重要度の10年前との経年比較】

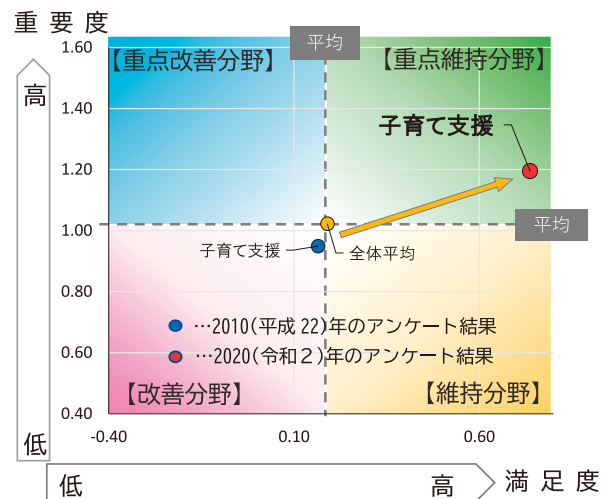


2-6 子育て支援



□豊かな自然環境の中で、次代を担う子どもたちが健やかに育つよう、妊娠・出産・子育ての切れ目のない支援の提供や環境整備を図ります。

□家族形態が多様化し、共働き世帯が増加する中で、安心して働きながら子育てができるよう、保育や子育て支援の体制を行政と町民の協働により整備します。



2-7 社会保障



□生涯にわたって安心した生活を送ることができるよう、医療、介護、年金等の社会保障制度の適切な運用に向けて取り組みます。

2-8 ひとり親福祉、低所得者福祉



□ひとり親や低所得者世帯等が、自立した生活ができるよう支援します。



基本目標3 だれにも優しく快適なまちづくり

3-1 土地利用



□公共性や自然環境、その土地の持つ社会的条件などに配慮し、総合的かつ計画的に土地利用を進めます。

3-2 防災



□激甚災害が起ころっても、身近な地域の助け合いで町民の安全が確保されるよう、町民や地域と連携した防災体制の確立を図ります。

□災害発生時に、建築物やインフラの損害により町民に危険が及ばないように、災害に強い都市基盤の整備を図ります。

3-3 消防、救急



□複雑多様化する災害に対応できる消防救急・救助体制の充実を図ります。

□防災・防火活動及び啓発に努め、知識・技術を高め、町民と地域の連携に努めます。

3-4 交通安全



□交通安全に対する意識の向上、安全な交通環境の整備を図り、町民を交通事故から守ります。

3-5 防犯、消費生活保護



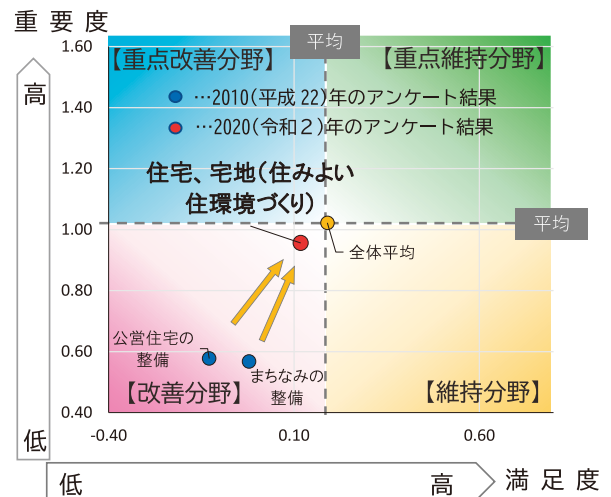
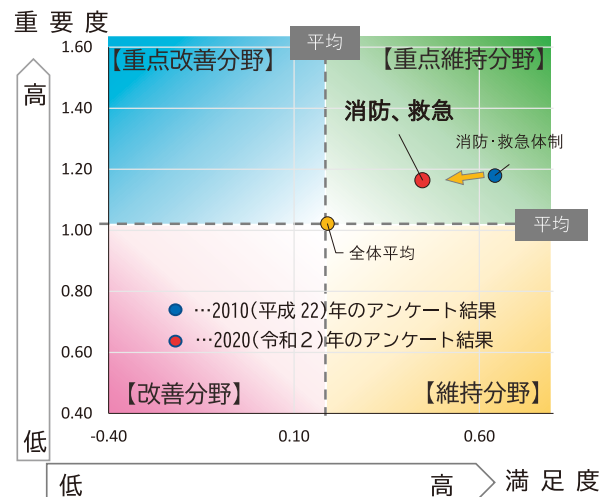
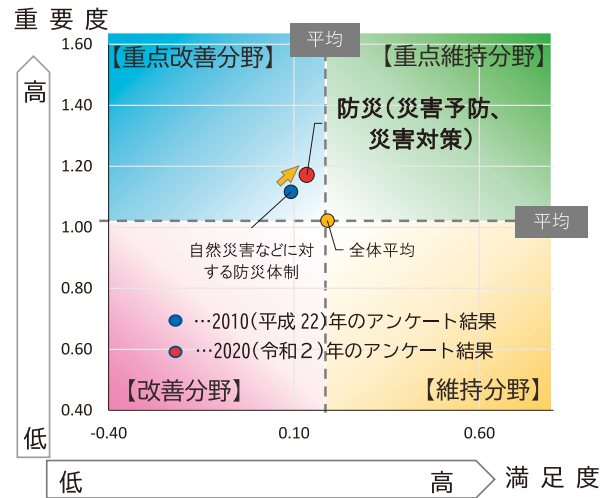
□犯罪やトラブルに巻き込まれない意識や知識の普及、環境整備を図り、発生を未然に防ぎます。

3-6 住宅、宅地



□住み良い住環境づくりを目指した住宅整備や宅地の分譲に努めます。

【満足度・重要度の10年前との経年比較】



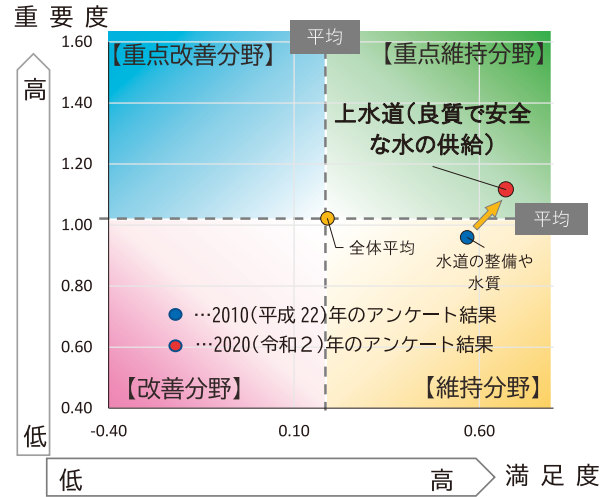
3-7 上水道



- 良質で安全な水がいつでも利用できる水道の供給に努めます。
- 水道事業の経営基盤強化に向け、公営企業会計による事業の効率化と健全化に努めます。



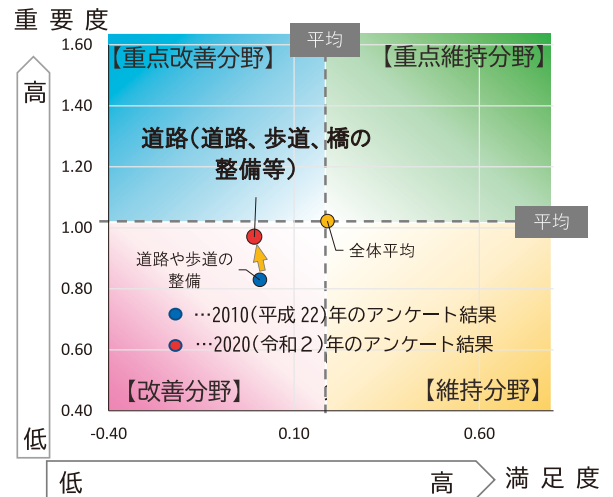
【満足度・重要度の10年前との経年比較】



3-8 道路



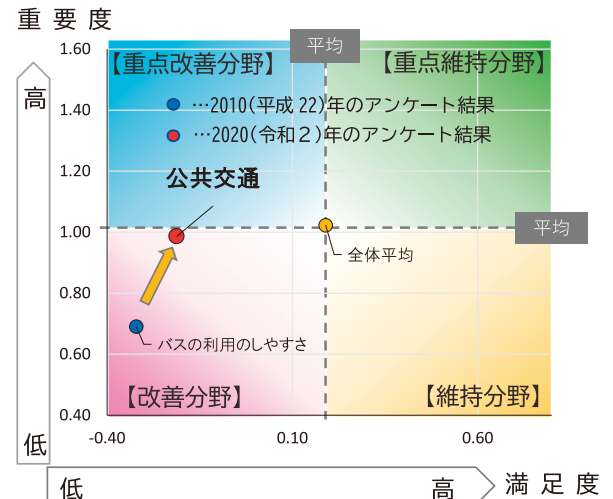
- 町民生活における移動や産業振興における輸送に欠かせない道路網の利便性や安全性を高めるとともに、だれもが快適に利用できる道路整備に努めます。
- 本町の魅力的な観光資源は道路から望むものも多く、観光・産業振興の観点からも、道路整備に努めます。



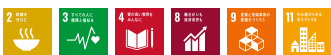
3-9 公共交通



- 従来の公共交通サービスに加え、多様な輸送資源を活用して移動手段を確保していくなど、だれもが安心・安全・快適に生活できる持続可能な公共交通サービスの確保に向けて取り組みます。



3-10 情報通信基盤・環境



- Society5.0*時代に対応するため、町内の様々な分野でICT化を推進し、だれもが生涯活躍できるスマートタウンの実現を目指します。
- すべての地域で情報通信技術を活用できる通信環境の整備を図るとともに、情報通信基盤を活用したICTの普及促進に努めます。

*Society5.0: サイバー空間(仮想空間)とフィジカル空間(現実空間)を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会。

基本目標4

人と自然が調和したまちづくり

4-1 環境保全、自然保護



□将来の世代も安心して暮らせる社会を実現するため、気候変動の原因となる温室効果ガスの排出をゼロにする取組を体系的に実行し、地域脱炭素を目指します。

□豊かな自然環境を未来へとつなぎ、人と自然の持続的な共生を目指します。

4-2 環境美化、公害



□町民との協働で、ごみのない清潔で美しい生活環境をつくります。

4-3 公園、緑化、景観



□様々なニーズを総合的に検討し、子どもからお年寄りまで幅広く利用される公園づくりを進めます。

□潤いと安らぎのある地域景観の形成に努めます。

4-4 葬斎場、墓地



□町民の身近にある葬斎場の保全に努め、心の拠り所となる墓地の維持に努めます。

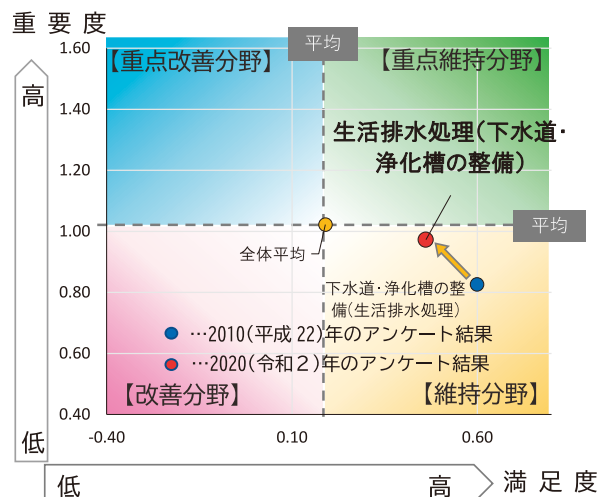
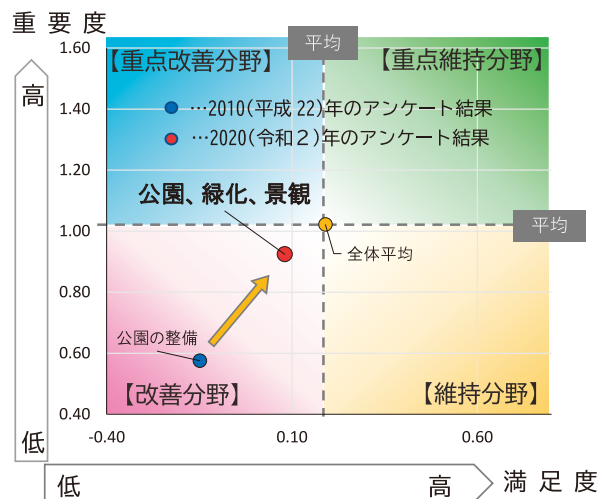
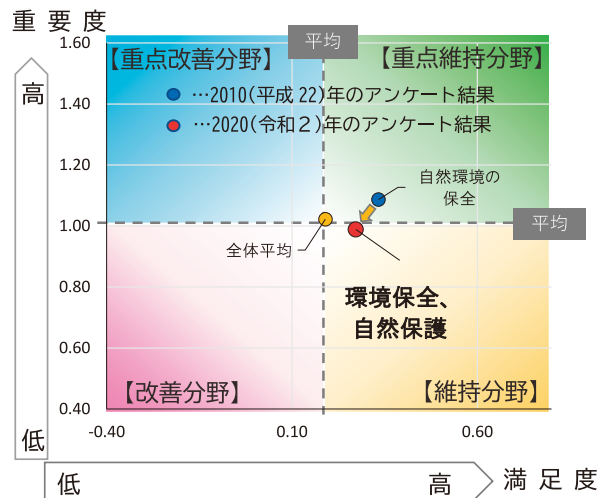
4-5 生活排水処理



□生活排水を適切に処理するため、生活排水処理施設の整備や維持管理に努めます。

□下水道事業の経営基盤強化に向け、公営企業会計による事業の効率化と健全化に努めます。

【満足度・重要度の10年前との経年比較】



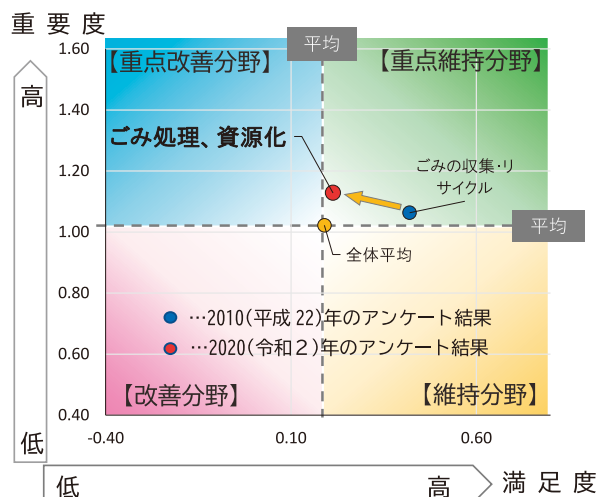
4-6 ごみ処理、資源化、し尿処理



□廃棄物の適正処理に努めるとともに、ごみの減量化のため、分別の徹底と資源ごみを再生利用するほか、発生抑制や再使用の推進に努めます。

□持続的にまちの衛生環境を維持していくため、広域的なごみ処理への移行を進めます。

【満足度・重要度の10年前との経年比較】



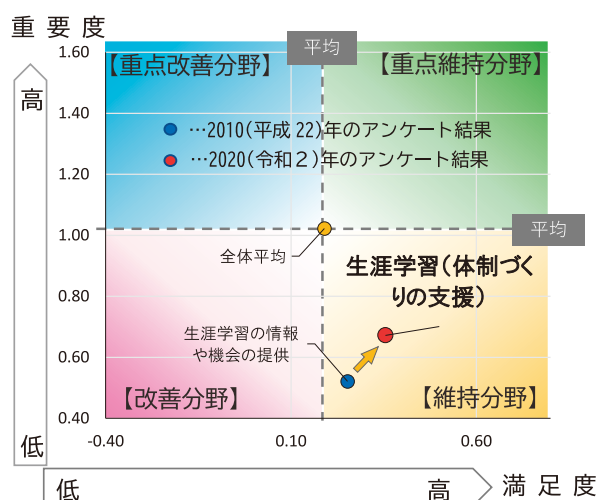
基本目標5 だれもが学び続けられるまちづくり

5-1 生涯学習



□「人生100年時代」に向けて、生涯にわたって学び、それを活かせる場の確保が生きがいへとつながります。町民が自ら学び、学んだ成果が地域で活かされる「生涯学習によるまちづくり」を進めます。

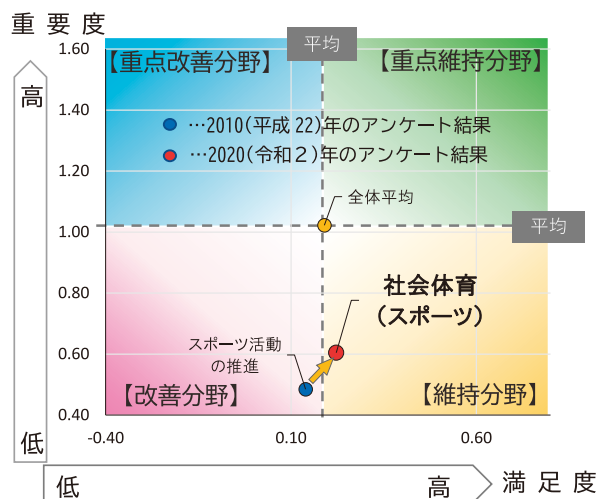
【満足度・重要度の10年前との経年比較】



5-2 社会教育



□「豊かな心情と健康なからだをもち、自らを高め、住み良い郷土をつくりだす人」を育てるため、社会教育を推進します。



5-3 社会体育(スポーツ)



□町民が生涯にわたりスポーツに親しむことができるよう、スポーツ活動を普及・拡大し、心身の健康を高め、健康寿命の延伸を図ります。

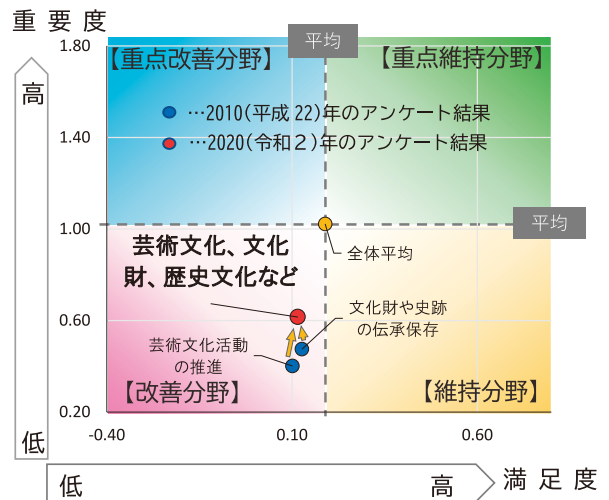
5-4 芸術文化、文化財、歴史文化



- 芸術文化に気軽に親しめる環境を整え、町民による主体的な芸術文化活動を促進します。
- 文化財を大切にする意識を町全体で共有し、貴重な文化財の保護、活用に努めます。



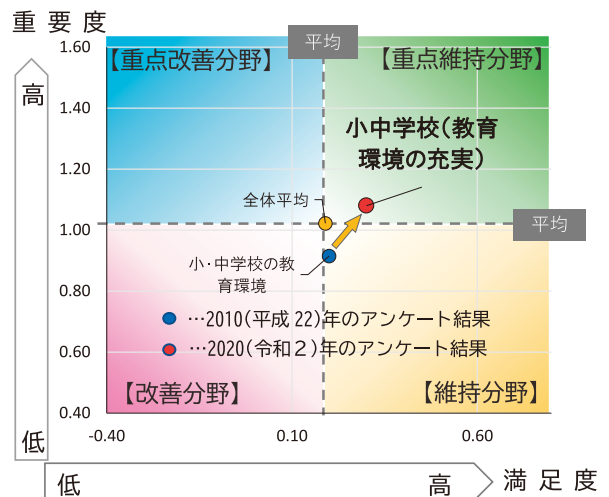
【満足度・重要度の10年前との経年比較】



5-5 小中学校



- 「健康で明るく、知性に富み、自主的で郷土を愛するたくましい子」を育てるために必要な教育の推進に努めます。
- 地域に根ざし、活力と創意に満ちた、信頼される学校経営に努めます。
- SDGs や異文化への理解の必要性の高まりやICTの発展など、時代の変化に対応した「生きる力」を育む教育を推進します。
- 「上士幌町子ども教育ビジョン」で定めた「目指す子ども像」の具現化を図ります。



5-6 高等学校



- 本町ならではの魅力と特色を持った学校づくりを物心両面で支援します。
- 一定規模の生徒を維持し、活力ある教育活動を展開できるよう物心両面で支援します。
- 高校が地域に与える影響や高校に対する地域の期待を勘案した高校振興を促進します。
- 地域振興の核として、町、地元企業等が連携し、地域課題の解決を主体的に探究する人材の育成を支援します。



基本目標6

支え合いとおもいやりのまちづくり

6-1 交流、移住定住、国際化



- 国内外との交流や移住定住、二地域居住のニーズに対応するため、多様なライフスタイルや働き方を実現できる体制を整備します。
- 町外から本町を応援する関係人口の拡大を図り、地域活性化の担い手の増加に取り組みます。

6-2 コミュニティ、まちづくり活動



- コミュニティへの意識が時代とともに変化する中において、行政区(町内会)の発意を尊重しながら、町民の安心・安全な暮らしのためのつながりづくりを推進します。
- 子どもからシニア、外国人など、だれもが生涯にわたり充実した人生を送ることを目指す「だれもが生涯活躍のまち」を進めます。

6-3 多様性の尊重と社会的包摂※



- 男女がともに社会のあらゆる分野の活動に参画し、多様性を認め合い、すべての人が包摂される社会の実現を目指します。
- 次世代を担う子どもたちが健やかに生まれ育つ家庭環境をつくるため、仕事と家庭が両立できる職場環境づくりを目指します。

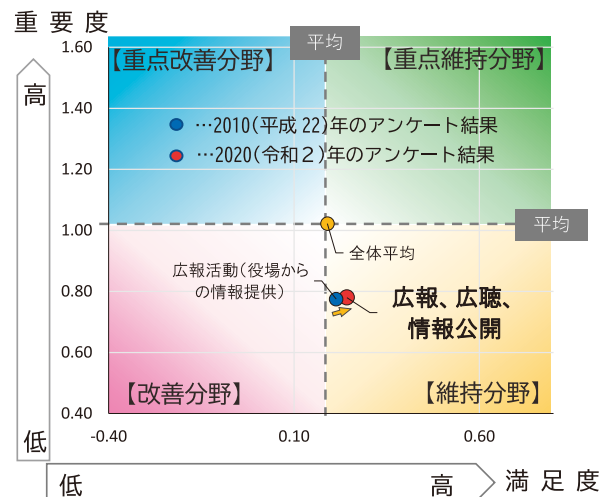
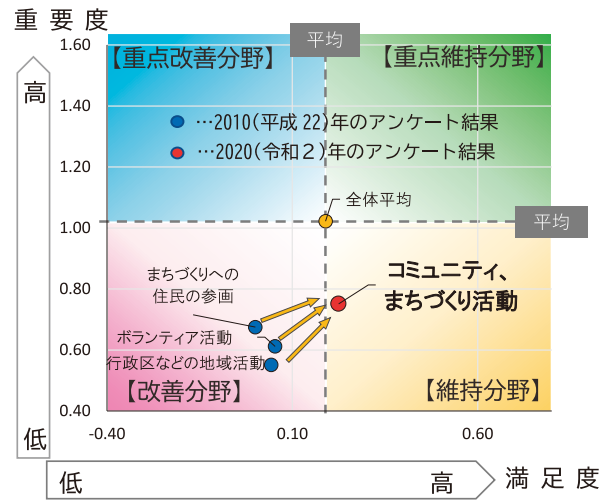
6-4 広報、広聴、情報公開



- 町民に伝わりやすい広報、多くの声を聞き町政に活かしていく広聴を進め、開かれた行政に努めます。
- 情報公開や出前講座等の町民の要請に対応し、行政と町民が現状認識・課題意識を共有することで、コミュニティやまちづくり活動への町民参加促進につなげます。

※社会的包摂：だれもが社会に参画する機会を持ち、排除されないことを意味する。

【満足度・重要度の10年前との経年比較】



6-5 行政運営



- 多様化する行政へのニーズに的確に対応し、課題解決を効率的、効果的に行う行政運営に努めます。
- デジタルトランスフォーメーション(DX)を推進し、業務効率化や町民の利便性向上を図ります。

6-6 財政運営



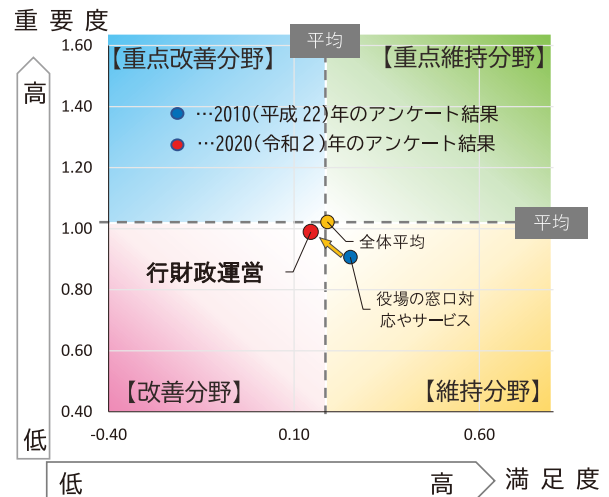
- 将来に希望が持てる先行投資も踏まえたうえで計画性を重視し、健全な財政運営に努めます。
- 国・道の制度を活用しながら、まちの維持・活性化に活用する財源の確保を図ります。

6-7 広域行政(広域連携)



- 広域連携の必要性の高い事業について、関係機関や市町村との連携を推進し、事業の効率化や効果向上を図ります。

【満足度・重要度の10年前との経年比較】



第6期上士幌町総合計画 2022~2031 ダイジェスト版

発行元 上士幌町 〒080-1492 北海道河東郡上士幌町字上士幌東3線 238 番地
 電話 01564-2-2111
 編集 上士幌町企画財政課
 発行日 2022(令和4)年3月
 U R L <https://www.kamishihoro.jp/>
 Eメール kikakuzaiseika@town.kamishihoro.hokkaido.jp

